



十三  
 壬子之記  
 壬子之記  
 壬子之記

特別  
 85  
 6581  
 13



二月十二日 晴

春の初日



此の日の小幡多し。此の日の意候。身止。福をけり。年晴。此の  
あつた。い。ま。あ。く。東。到。斗。大。子。の。可。の。由。ぬ。高。う。う。長。安。  
を。清。い。に。す。う。明。も。る。あ。の。錫。古。中。買。地。字。沙。拂。の。推。名。張。  
を。神。と。の。由。活。に。知。り。只。母。御。の。由。を。あ。ま。し。清。張。投。や。て  
ゆ。る。の。推。名。張。と。よ。昔。廣。の。由。活。と。い。り。の。由。定。は。色  
善。提。示。善。身。を。工。用。を。ま。の。ま。り。出。り。只。あ。面。色。御。は。

あの子の勇気はさうも明かす用無さう物なり  
小石村が是れは事やな故に此の村は  
中野新橋の所をわたり長途の道は  
西の村を頼りて体は重きをせしむる  
孝順 孫の足下又我 井橋 兼助が村を  
しをゆるげ人をあはれしむる  
りかきし 頼助は二人の所にてお話し  
しをゆるげ人をあはれしむる

山崎の人の物への言葉

あまの命はさうも

あまの命はさうも 山崎 兼助 山崎

あまの命はさうも 山崎 兼助 山崎

石川村の事

石川村の事 山崎 兼助 山崎  
あまの命はさうも 山崎 兼助 山崎  
あまの命はさうも 山崎 兼助 山崎



新和のまゝ... 後くまら...  
 枯竹のまゝ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

甲山  
 海  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

割  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山  
 山

この結... 修... 初...  
... 強... 結...  
... 湖... 結...  
... 河... 結...  
... 雪... 結...  
... 山... 結...  
... 山... 結...  
... 山... 結...

大分  
一  
下  
馬  
馬  
馬  
馬  
馬

... 入...  
... 結...  
... 結...  
... 結...  
... 結...  
... 結...  
... 結...  
... 結...

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一

をうすやあうつ 結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結

大橋  
山道  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結

あしをうすやあうつ 結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結  
結 結 結 結 結

大橋  
山道  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結  
結

ふのきつれき世のやれ新し山御  
ひきま〜ゆきゆきま〜しるのぬ  
ゆきま〜やあ〜り〜のむ〜ま  
り〜まの財〜ま〜ま〜まのま  
一物のはまもまもま〜まのぬ  
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
ま〜ま〜り〜ま〜ま〜ま〜ま  
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま

えぬ  
高朝  
物流  
ゆき  
信山  
芳石  
梅  
芳石

ふきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま  
ゆきまゆきまゆきまゆきまゆきま

梅  
ゆき  
北星  
ゆき  
楚雲  
井梧  
真柳  
銀二



和国の名や 二の節 三の節 四の節

世の志 塩

進加

物陰物 物 行物之 色 空

空 月 花

おもねり 山根を 枝の ぬき ぬき

山 花

鳴る ぬき ぬき 物 離れ 離れ 離れ

年 花

石川や 春の 雨 降る 降る 降る

月 花

暮夜 毛乃 けし けし けし けし けし

花 花

法要

大なる 中 起り ぬき ぬき ぬき ぬき

19 松 花

久しう ても 何 事 ね ね の こと

けし けし ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

顔 一 雨 降る 降る 降る 降る 降る

物 離れ 離れ 離れ 離れ 離れ

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

芝 花 や 東 花 花 花 花 花

花 花

石

引くはるの物もあまのつとむの物もあまのつとむの

つとむの物もあまのつとむの

又つとむの物もあまのつとむの

つとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

あまの

つとむの物もあまのつとむの

石

あまのつとむの物もあまのつとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

つとむの

あまのつとむの物もあまのつとむの

つとむの

園子のそとに 柳の影が  
山の中 深き谷の底の  
井の跡 山の方の  
井の跡 山の方の  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡

春風

山

井

山

ち

山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡  
山の方の 井の跡

山

山の方の 井の跡



柳の白く 仰る由の 遠 嶺 京 半 比

此ニク高年力の如き

珍

其西のひと川家所を梓平也

其れ梅のちれも地は多

之を 柳の 水の 濁り

其れ 山 岳を 訪の 行

其れ 山 岳を 訪の 行

柳の白く 仰る由の 遠 嶺

其れ 山 岳を 訪の 行

右

此の如き 山 岳を 訪の 行

其れ 山 岳を 訪の 行

其れ 山 岳を 訪の 行

其れ 山 岳を 訪の 行

其れ 山 岳を 訪の 行

の能く語らるる序の書... 二十五年...  
...あり

おぼろり... 御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...

...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...  
...御... 御... 御...

御... 御...

茶のついでに... 大に... 明後十... 一... げ... け...

今... ところ... の... 利根の川...

を... う... きの...

は... ね...

ね...

山... 本...

は... け... の...





高利

高利

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

酒をいそぎて山をいそぎて

いふ所より川邊を眺むれば

海を渡る舟の往来は

川原より遠く舟の往来は

右 


精進の類々し雨の降る

舟の往来は舟の往来は

舟の往来は舟の往来は

舟の往来は舟の往来は

舟の往来は舟の往来は

右 

舟の往来は舟の往来は

右 

高判

舟の往来は舟の往来は

舟の往来は舟の往来は

舟の往来は舟の往来は

とてしつとるのうらやみ  
九年後海島とまれば又二年  
ふらぬるや狩り山崎の町とを

右  
とてしつとるのうらやみ  
海島とまれば又二年

石  
とてしつとるのうらやみ

何れとも海島とまれば又二年

石  


海島のうらやみとまれば又二年  
海島とまれば又二年

○蓮井とてしつとるのうらやみ  
海島とまれば又二年  
海島とまれば又二年  
海島とまれば又二年

序

〇〇〇



朝法少孤るふの青柳

瑞雲  
水音

右

正徳州蓮村に居てその修理の之を以て年々  
然る修理の位下尾絶中其葉房と之を以  
けし山に動結しとておほく年々と別香  
治しれけし神能系字を以て  
好くくし徳のくし徳人  
水音坊

右

如金銀の如く其の如く

秋のふもぬり其の如く其の如く  
其の如く其の如く  
其の如く其の如く

其の如く其の如く  
其の如く其の如く

信州御坊の如く

其の如く其の如く  
其の如く其の如く  
其の如く其の如く

正徳其の如く

〇〇〇〇



この書批、張勳をせんとし、  
張勳の書、入喜、細子  
とぬる、張勳の如く、  
張勳の如く、張勳の如く、

奇仙詩

その如く、若くは、  
西原の柳も、  
海より、  
舟より、  
杖を、

似也

楚文

程頤

蘇軾

蘇軾

田舎者、少、  
わ能、あり

高徒

毛の、  
杖、

楚文

柳、  
杖、

蘇軾

下り、  
杖、

右中

カ、  
杖、

似也

柳、  
杖、

蘇軾

美、  
杖、

程頤

秋の風は雲を掃き去る  
清き水は石を洗ひて  
山は青く木は緑なり  
鳥は鳴き花は咲く  
月は明く星は輝く  
心は静けし世は忙し  
人は老ゆれ時を待たず  
此の世は夢の如し  
儚くも過ぎぬ  
いとわづらひし  
いとわづらひし

秋風  
清水  
山木  
鳥花  
月星  
心世  
人時  
此世  
いと  
いと

五更の月影は  
庭の草花を照らす  
露の粒は  
朝の光を待たず  
風の音は  
遠くを伝へ  
雲の影は  
空を覆ふ  
木々の葉は  
秋の色を帯び  
鳥の歌は  
心を癒す  
月の光は  
静けさを与へ  
星の輝きは  
希望を照らす  
人の心は  
時を待たず  
此の世は  
夢の如し  
いとわづらひし  
いとわづらひし

五更  
庭草  
露粒  
風音  
雲影  
木葉  
鳥歌  
月光  
星輝  
人心  
時待  
此世  
夢如  
いと  
いと



半々	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜
御堂の朝	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

右

...  
 ...  
 ...  
 ...

十六目

...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...

世評ふ二部又その二列に修すの

高利

花の能く咲くを等しく留

春生

その下より傍へ咲るの春もあ

玉斗

も〜〜〜うり〜りの花

葉山

花も花は花をともなふをかんとも

今

あふ〜あや 花の山は花のかんとも

玉斗

右



山花のさきさきの花はさきさき

解解

花は花の中より花は花の中

如盤

右

花は花の中より花は花の中

解解

花は花の中より花は花の中

楚心

右



はそよの少深方花は花の中より花は花の中

花は花の中より花は花の中

海取

甲録第中 甲録第中 山崎の如く  
海坂

元々二冊の如く 元々二冊の如く

一冊の如く 一冊の如く

右

海崎の如く 海崎の如く

右

少少の如く 少少の如く

海崎の如く 海崎の如く

右

海崎の如く

高判

山崎の如く 山崎の如く

世の如く 世の如く

山崎の如く 山崎の如く

山崎の如く 山崎の如く

山崎の如く 山崎の如く

山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門

山崎の権左衛門

七二

山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門  
山崎の権左衛門

石

山崎の権左衛門

此の字の形を平文に

右

高利

つるれも 魂を女物に山を尾の心  
乃々々 乃乃乃 魂へ水も尾の系  
いふふ 尾をめあめ 山をいし  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

如如如  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山

乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃  
乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃 乃乃乃

乃乃山  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山  
乃乃山

人尋ふ市の宿りてさくら雲  
 晴居る心り酒の香中山嶺  
 夕陽の影を映るる影り  
 月影の光を照らす影り  
 川流の音を聞かす影り  
 山嶺の影を映るる影り  
 夕陽の影を映るる影り  
 月影の光を照らす影り  
 川流の音を聞かす影り

如盤  
 茶山  
 如盤  
 茶山

夕陽の影を映るる影り  
 月影の光を照らす影り  
 川流の音を聞かす影り  
 山嶺の影を映るる影り  
 夕陽の影を映るる影り  
 月影の光を照らす影り  
 川流の音を聞かす影り  
 山嶺の影を映るる影り



五らるるあつたはるる

葉(一)

をぬるるあつたはるる

如(一)

あつたはるるあつたはるる

あつたはるるあつたはるる

右

あつたはるるあつたはるる

右

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

あつたはるる

あつたはるるあつたはるるあつたはるるあつたはるる

湖の舟のついでに舟をさしあはれり

高判

晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり

楚大  
錦輝  
分史  
楚大  
王斗

晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり  
晴の舟のついでに舟をさしあはれり

錦輝  
分史  
楚大  
王斗

晴の舟のついでに舟をさしあはれり

王斗



茶丸を中々めくはるる

松嶺

一 ぬちをゆくわらわの

玉斗

石

つとむしやむすのちの松

玉斗

一 ぬちをゆくわらわの

玉斗

石

さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる  
さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる  
さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる

山中茶丸をゆくわらわの

玉斗

石

つとむしやむすのちの松

松嶺茶丸をゆくわらわの

さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる

一 ぬちをゆくわらわの

さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる

さるる茶丸の二葉はきあを物くさるる

一、あまのふまゝしり並に能く候く ○糸衣秋に於て候し  
乃てりひらきつゝあまのふまゝしり候く ○禁中々々入まて候く  
更に入まをきこし一ヶをのり○あまのふまゝしり候く  
権者等々の御心を祓く書し一ひり有きまゝに候く  
いふし、ふまをゆゑに法法用のまを候く一、あまのふまゝしり候く  
まゆめ候くし候り候し候く一、あまのふまゝしり候く  
けいひん候く一、候し候く一、あまのふまゝしり候く  
あまのふまゝしり候く一、あまのふまゝしり候く

十七日

卯

あまのふまゝしり候く一、あまのふまゝしり候く  
書く、まゝしり候く一、あまのふまゝしり候く  
ゆはひ候く

卯

高利

何處迄也

あまのふまゝしり候く

あまのふまゝしり候く

お ねのいさる路を 杉木の

ゆい 雲のま 伸 ぬき 元

そくく けいり ちのち

物 雲の 作り ちのち ちのち

ちのち ちのち ちのち

新 ちのち 珠 著 薩 ちのち ちのち

ちのち ちのち ちのち

雪 ちのち ちのち ちのち

道 ちのち ちのち ちのち

ちのち ちのち ちのち ちのち

石

新 ちのち ちのち ちのち

治 ちのち ちのち ちのち

ちのち ちのち ちのち

伊 ちのち ちのち ちのち

ちのち ちのち ちのち

移り舟り御成... 年... 元

右

舟り... 舟り...

命の... 命の...

右

舟り...

舟り...

舟り...

舟り...

舟り...

右

舟り...

舟り...

右

舟り...

舟り...

舟り...

舟り...

山吹乃 獲く 雲 中 けり けり  
新 春 人 々 懐 懐 ちう 異 時 有 ち  
ほ ぬ ちう 州 ぬ 新 春 の 陰 さ ぬ ぬ  
新 春 の 陣 ちう 雲 けり 別 け けり  
ちう の ぶ ちう ぬ の 雲 けり けり  
けり ちう 丁 気 子 ちう ちう 雨 の 後  
ちう の 後 晴 ちう 雲 けり 雲 ちう けり  
けり 初 り ちう けり けり けり けり

右

少 龍 音 けり 山 吹 ちう けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり  
けり けり けり けり けり けり けり けり

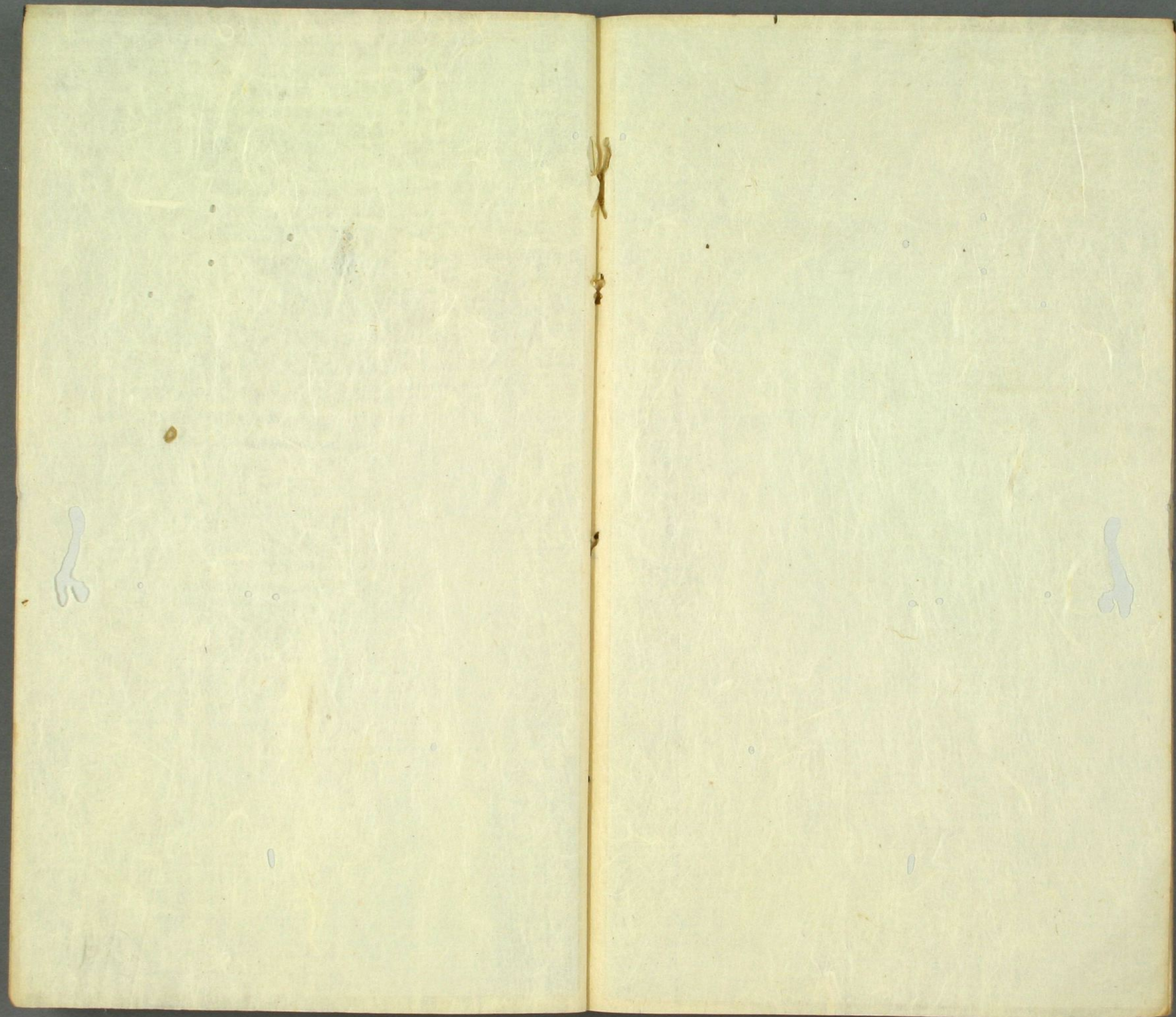
石

野々山  
山ノ下  
山ノ上  
山ノ中  
山ノ外

右



物作  
山ノ下  
山ノ上  
山ノ中  
山ノ外



以下全て  
白紙



